

【高齢者向け対策 シミュレーターで実験】

放映日時:平成28年1月27日(水) 18:19~18:24 (4分50秒)

番組名:てれまさむね(NHK総合:NHK系列)



高速道路で、高齢者の逆走が増える中、インターチェンジの入口で、案内表示を改善する対策の効果を確かめようと、シュミレータを使った実験が多賀城市で行われています。

(大分自動車道逆走発生映像 NEXCO提供)

高速道路の運転席からの映像です。中央分離帯のむこう側、反対車線を見ると、同じ向きに走っている車があります。高速道路での逆走は、去年、東北地方で29件発生し、前の年より11件増えています。逆走のおよそ70%は高齢者によるものです。

こうした逆走事故を防げないか、と言う実験が、こちらで行われています。使われているのはこの装置です。東北大学と仙台河川国道事務所が協力して行っている実験では、高齢者がシュミレータを運転します。前方のスクリーンには、実際の道路の映像が再現されます。

逆走のうち半数は、インターチェンジやジャンクションで、進路を誤ったことが原因です。実験は三陸自動車道の河北ICで、一般道から進入するルートを設定しています。無料区間で料金所の無い河北ICでは、これまで4件の逆走が発生しています。

(レポーター)「実際に私も、この装置に乗って体験したいと思います。看板が出てきました。三陸道は右折ですね。直前の看板を見て直ぐに右折する判断を瞬時にしなければいけないのは、いろいろな条件のなかでは迷うこともあるかもしれません。

では今度は、高齢者への対策を施した道路を運転します。看板が出てきましたがシンプルになっていました。右折には道路が緑に塗られていて、これに沿って正しく入っていけると、これはわかりやすかったと思います。

実験では、路面の色の塗り方のパターンや、看板の表示内容を変えながら、高齢者の反応を確かめています」

(実験協力者①)「矢印とか、色別とかで分けられると、運転し易いんだろうと言うのは感じました」

(実験協力者②)「私たちは高齢者なので、どうしても車線が広いとですね、どっち行ったか判らないところがありますね。心配な面がありますので、識別していただくと、安心ですね。」

(仙台河川国道事務所 松本交通対策課長)

「逆走は一度発生すると、重大な事故にもつながりかねません。ドライバーの皆さんがわかりやすい案内表示、これは今回のシュミレータを活用して、事前に評価して、そして、より効果的な対策に結びついていければと言う所に、大きく期待しております。」

(アナウンサー) この実験は実際の道路を使わなくて済むため、標示パターンを何回も変えて試すことが出来、コストを抑えて効果を確かめられると言う事です。

早ければ、平成28年度、実際の道路でこうした案内標示などを実施したいと言う事です。

【最新技術！シミュレーター公開】

放映日時：平成28年1月27日（水） 18:23～18:25（2分00秒）

番組名：Jチャンネルみやぎ（東日本放送：テレビ朝日系列）



こちらをご覧ください。このように高速道路を走っています。この追い越し車線、あっという間にですね。逆走する車がやってきて通ってしまいました。正面衝突していたらと思うとかなり危険ですね。

そんな逆走をなくそうと最新のドライビングシミュレーターが公開されました。



年々増加傾向にある車の逆走による事故。東北地方整備局は東北大学が開発したドライバーの運転技術が分析できるドライビングシミュレーターを使い逆走対策に乗り出しました。

（リポーター）

「運転手のハンドリングやブレーキのタイミングなどを数値化することでより効果的な逆走対策を導き出そうというものなんです」



今日は特に逆走する人がおおい65歳以上の高齢者を対象に実験が行われました。

シミュレーターでは通常の道路表示のものや路面に色付けされたものなど6パターンの道を走り逆走に陥りにくい表示がどれなのか検証します。

（実験協力者）

「私たちは高齢者になるとどうしても車線が広いとですねどっちにいったかわからないときがあるんですね。識別していただくと安心ですね」



シミュレーターでつけた三陸道では逆走の発生が近年増加傾向にあり2010年度から2014年度までに55件今年度は先月までに15件発生しています。

（仙台河川国道事務所 松本交通対策課長）

「ドライバーの皆さんが分かり易い案内表示。これを今回のシミュレーターを通して、事前に評価してそしてより効果的な対策に結びついていければというところに大きく期待しています」

東北地方整備局では実験結果を年度内にまとめ公表する予定です

【逆走を避け！！ 検証実験公開】

放映日時：平成28年1月27日（水） 18:15～18:18（2分50秒）

番組名：Nスタみやぎ（TBC東北放送：TBSテレビ系列）



増加傾向にある逆走する車、その逆走車の対策に役立てます
道路や標識を改良し、高速道路での逆走を防ぐと東北大学などが実施している検証実験が、今日、報道公開されました。



今回の実験は、車が道路を走っているような状態で、行われました。

この実験は、東北大学と仙台河川国道事務所が共同で行っているものです。

共同実験は石巻市内の国道45号線から河北インターチェンジを使って、三陸沿岸自動車道へ入るという想定で、実際の道路と標識などを改良した道路を比較しながら検証しています。

この河北インターチェンジに入る交差点は、標識が複雑でわかりにくいうえ、入り口に向かう道路は出口側の車線が広く、誤って出口側の車線に入ってしまうケースが見られるということです。



そこで、改良した道路を走ってみると、（リポーター）「十時路でわかりやすいですね。路面ですが緑色に塗装されています。そして交差点も緑の塗装がしています。これだと間違い危険性が少なくなりますね。」

仙台河川国道事務所が管理する県内の三陸沿岸自動車道では、おとし1年間で、前の年より5件多い15件の逆走が発生し、増加傾向にあります。



実験には20代～70代の県内の男女、約30人が参加しています。

（仙台河川国道事務所 松本交通対策課長）

「逆走はひとたび発生すると重大な事故にも繋がりがねません。ドライバーの皆さんがわかりやすい案内表示、これを今回のシミュレーターを活用して、事前に評価してより効果的な対策に結びついていければと。」

この実験は明後日まで行われ、その結果を検証し、今年4月以降、河北ICなどで道路の改良が行われる予定です。

【逆走を防げ ドライビングシミュレータ実験】

放映日時:平成28年1月27日(水) 18:15~18:18 (3分00秒)

番組名:ミヤギnews every(ミヤギテレビ:日本テレビ系列)



高速道路の逆走のニュース、よく耳にするとおもうのですが、先月18日には仙台東部道路でも軽自動車がおおよそ7kmに渡って逆走するという事態が発生し、一時通行止めになりました。

高速道路での逆走は、重大事故に繋がる可能性が高く、効果的な対策が求められていて、今日その実験が公開されました。

巨大画面と実際の車両を使ったドライビングシミュレータ。画面には現在逆走対策がされていない三陸道河北ICにつながる道路が再現されています。

実験では、逆走の主な原因である、勘違いを防ぐため、路面のカラー化など6パターンの対策をシミュレーションを実験し、どれが最も効果的かを調べています。

三陸道を管理する国土交通省は、東北大学と共同で効果的な逆走対策を検討するため、このドライビングシミュレータ実験を行っています。



(東北大学 山辺茂之准教授)

「色々な対策案というのは考えているが、どれがいいのかはよく分かってないため、このシミュレータで数値化して、優劣をつけられることが一番メリットと思っている。」

全国的に逆走の7割が65歳以上の高齢者ドライバーであることから、実験に協力してもらった一般ドライバー30人も高齢者を中心に選定。6パターンの対策毎に車の速度やブレーキのタイミングなどのデータを測定します。

(実験協力者①)「夕方や悪天候時には、どっちに入っているか分かりづらい。」

(実験協力者②)「(高齢者になると)心配な面があるので識別して頂くと安心ですね。」



国土交通省によりますと、三陸道の鳴瀬奥松島ICと登米東和ICの間では、年間平均11件の逆走が発生しています。無料区間では料金所が無いことから、進入を間違えると逆走に直結する可能性が高いということです。

この実験は今週いっぱい行われ、国交省では来年度にも三陸道での逆走対策を実施するとのことです。

一方で東北自動車道ですが、ネクスコ東日本は、逆走対策が必要な箇所を東北道で50箇所洗い出しています。ただ、実際に対策が施されたのは、まだ10箇所だということです。

逆走というのは、死亡事故に繋がる確率が高速道路での破損事故に比べて40倍に高くなるということです。緊急な対策が求められます。

【高速道の“逆走”防止へ実験】

放映日時:平成28年1月27日(水) 18:20~18:22 (2分00秒)

番組名:みんなのニュース(仙台放送:フジテレビ系列)



(アナウンサー)

このグラフは、過去5年間で県内の高速道路で逆走が確認された件数です。
この逆走を防ごうと東北大学などが、シミュレータを使った新たな取り組みを公開しました。



(リポーター)

「わかりやすいですね。逆走対策できれいな緑色のラインが引かれています。これに沿って曲がるとしっかり入る事ができたようです。」

(ナレーション)

シミュレータでは河北ICが再現されており、IC入口付近を緑色にしたり、ポールを立てるなど5つのパターンの対策を検証しています。



(ナレーション)

実験には、29歳~78歳までの約30人が参加。

(実験協力者)

「私たち高齢者になると、車線が広いとどっちに行ったか分からない時がある。識別してもらえると安心。」



(仙台河川国道事務所 松本交通対策課長)

「分かりやすい案内・表示を今回のシミュレータを活用し事前に評価して、より効果的な対策に結びつけていければと期待しています。」